

社会医学系専門医制度(JBPHSM) Z E N H O 通信(No. 2 1)

令和5年1月11日発行
全国保健所長会

あけましておめでとうございます。

前号から期間が空いてしまいましたが、年末年始も含め皆さん新型コロナ対策で大変だったと思います。また今シーズンは、インフルエンザも流行し始めていて、新型コロナとの同時流行への対策も地域で進める必要があり、皆様忙しい毎日を過ごされているかと思います。

一方、社会医学系専門医は、公衆衛生分野に興味を持っている医師の獲得と育成、指導医や専門医の専門性を維持・向上していくための重要な制度であり、社会医学系専門医制度を充実発展させていきたいと思っていますので、今年もよろしくお願いします。

今回は、北海道と中国四国ブロックで開催された指導医講習会の実施報告をお届けします。指導医講習会も、北海道ブロックでは協作成のパワーポイント資料を用いた講習会でしたが、中四国ブロックでは専攻医だった先生もゲスト講師になり、指導医同士の交流も行ったようで、ブロック講習会も工夫しながらの開催となっています。

1月25日の全国保健所長研修会での指導医講習会では、実際に指導医だった山形県の阿彦医療統括監と現在専門医で指導を受けていた鈴木所長にお話しをしていただくことになっていますので、ご期待ください。

1. ブロック別指導医講習会の実施報告

北海道ブロック：令和4年8月30日開催

(講師・記録：山本長史 北海道渡島保健所長兼八雲保健所長)

新型コロナウイルス感染症の第7波が燃え広がり、少し減ってきたかなという時期に北海道ブロックの保健所連携推進会議が開催され、合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会(北海道ブロック)」がオンライン(Zoom)により開催され、受講者は12名でした。開催状況をご報告いたします。

スライドは社会医学系専門医協会から送付された資料もあったのですが、6月に東北ブロックで講師をしていただいた山形県の山田先生が編集してくれたものの方が、わかりやすくなっていたので、山田先生のご了承をいただき、山田先生の資料をベースに編集しました。流れとしては、参加者の関心が高いであろう「更新について」を最初に取り上げ、その次に、「社会医学系専門医制度とは?」「専門医研修の流れ」「協会HPのご紹介」という順番に説明しました。「更新について」は、延長が3年まで出来ることと、今回の申請から、更新申請の際にK単位とG単位の受講票の提出は必要ないこと。ただし審査の過程で疑義があれば、受講証明書などの全部または一部の提出が求められるので、更新手続きが終了するまで保管して欲しいことを、特に強調して説明しました。

「社会医学系専門医制度」ですが、「行政・地域」「産業・環境」「医療」の3分野を研修することになります。実は、先日見ていたテレビ番組で「一流の人、二流の人に国を任せてはいけない。三流以上の人に国を任せよ。」と中国古典に書かれていると紹介されていました。ここでいう一流とはひとつの分野の専門家という意味だそうで、社会医学系専門医は3分野を研修するので、まさしく三流以上の人であり、国を任せられる人だと、改めて社会医学系専門医制度は素晴らしい制度と再確認しました。

また、公衆衛生行政に進もうと考えている医師や医学生の中には、専門医取得に関心の高い人がいる

ので、保健所医師には指導医の取得や維持をしていただき、後進を育てていただきたいと思います。

「専門医研修の流れ」については、来年1月の全国保健所長会研修で、指導医として山形県の阿彦先生、専攻医として鈴木先生に講師をお願いして、実際の研修の中味について講習会をすることになっていて、是非皆さんに参加して欲しいと伝えました。

最後に最新の情報は「協会HP」に掲載されているので、定期的に見て欲しいことをお話ししました。

新型コロナウイルス感染症に対する対応も日々変化し、忙しい日が続く、社会医学系専門医の維持が難しい状況下と思いますが、延長制度を活用するなどして、専門医を維持していただくようお願いして、講義を終了しました。

2. ブロック別指導医講習会の実施報告

中四国ブロック：令和4年11月11日開催

(講師・記録：横山勝教 香川県東讃保健所)

(ゲスト講師：平本恵子 広島市南区厚生部／南保健センター)

「社会医学系専門医協会指導医講習会(中四国ブロック)」が令和4年11月11日に開催されました。鳥取県主催の「保健所連携推進会議(中四国ブロック)」(オンライン)に引き続いて開催され、受講者は24名でした。講師を担当させていただきましたので、ご報告いたします。

社会医学系専門医・指導医の概要や制度、更新方法については理解が進んできているということで、今年度は制度的な話は、更新方法の変更点に絞って解説し、指導医が専攻医を指導する上で役に立つ情報提供を行うプログラムにいたしました。

更新方法の変更点は、学会等の参加証などの証拠の紙書類の添付が不要となったことですが、疑義照会の可能性があるため手元には必ず保管しておく必要があること、申請の一部がWEBのフォームになっているものの、その入力したフォームを印刷して郵送する必要があることなど注意が必要であることを説明しました。

指導において役立つ情報提供としては、まずは私から、専門研修プログラムの中で身につけるべき8つのコンピテンシーについて、専攻医ごとに、おおまかに5段階程度で評価してレーダーチャートにすることで指導する専攻医にどのような経験を積ませることが必要か考えやすくなるであろうということ、また社会医学系専門医が社会の健康課題について、その解決を進める上でソーシャルデザインの7つのステップを意識するとよいであろうということ、さらにその各ステップにどのコンピテンシーが必要であるかどうかということについて解説しました。

その後、ゲスト講師の平本先生から、実際に平本先生が経験した広島プログラムの内容とそれを経て自分の8つのコンピテンシーがどのように変化したかについて発表していただき、私と平本先生の発表内容について意見交換する形で、指導医同士の交流を行いました。

事後のアンケートでは21名から回答を得て、21名全員から「参考になった」との評価をいただき、これまでの指導医講習会と大きく内容を変更した今回の取り組みがどのように受け止められるのか不安がありましたが、挑戦してみてよかったと安堵いたしました。

今後も、他の自治体の研修プログラムの紹介や、指導をする上で役に立つ資料や情報などが提供され、指導医が参加して参考になる内容の指導医講習会を目指して微力ながら貢献していければと存じます。最後に、拙い説明と進行ではありましたが、参加の皆様、ご清聴ありがとうございました。

また、貴重な機会を与えてくださいました、北海道渡島総合振興局 山本長史先生に心から感謝を申し上げます。

発行責任者：山本長史（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）